

【資料】

「むなかた電子博物館」の評価と課題

上田めぐみ

1.はじめに

2010年度は「むなかた電子博物館」にとって大きな意味をもつ年となった。1つ目は、九州ウェブサイト大賞における優秀賞の受賞。2つ目は、宗像市で行っている事業を対象とした「事業仕分け」において、「市（現行どおり）」の判定を受けたことだ。どちらも外部評価であり、外部から一定の評価をいただくことができた。

今まで、外部からの評価を得る機会はほとんどなく、関係者の試行錯誤で改善・充実に図っていた。そのため、この2つの外部評価は、関係者一同にとって大きな力となるものであり、今までの活動が報われた結果となった。

ただ、もちろんこの結果で満足してしまってはいけない。今後も、「むなかた」の魅力を発信し続け、教育・観光・世界遺産登録活動などに資するよう、常に向上していくことが必要である。

2.九州ウェブサイト大賞と「むなかた電子博物館」

九州ウェブサイト大賞は、「地域情報の発信とICTの利活用を促進し、地域経済の活性化を図ることを目的として2006年度から開催し、情報発信により地域に貢献し、優れた実績をあげているウェブサイトを表彰するもの」（※1）である。

「むなかた電子博物館」は2006年度、2009年度、2010年度の3回、同大賞に応募した。残念ながら過去2回の応募では入賞できなかったが、2010年、教育（一般）部門において、念願の優秀賞を得た。応募総数83サイト。そのうち教育部門は27サイトの応募があった。郷土「むなかた」について歴史・文化・自然と広く公開し、地域の情報発信、観光等に資することから、地域に貢献しており、また、市民ボランティアを中心とした企画・運営を行っていることが評価されたものと思われる。なによりも市民ボランティアの郷土「むなかた」への熱い思いが、今回の受賞につながったと実感している。

3.事業仕分けと「むなかた電子博物館」

2009年8月30日、政権交代により民主党政権が誕生した。その1つの目玉である事業仕分けは、「国家予算の見直しにおいて、国民への透明性を確保しながら、予算執行の現場の実態を踏まえて、そもそも事業が必要か否かを判断し、財源の捻出を図るとともに、政策、制度、組織等について今後の課題を摘出する」（※2）事を目的に、公益法人、財団法人等の事業が次々と仕分けされている。

2011年1月15日、宗像市では初の試みとなる外部評価（事業仕分け）が行われた。内部の

視点では気づかない効率性や有効性向上に向けた改善点の指摘、提案を受けることを目的とし、宗像市の全事業の中から16事業が仕分けの対象となり、そのうちの1つがこの「むなかた電子博物館事業」だった。

初の試みであったため、どのような議論が飛び交うのか、どのような評価が出るのか予想もつかなかったが、結果は「市（現行どおり）」の判定だった。この判定は、現行どおり市が事業を実施すべきであるという判定である。「市（現行どおり）」の判定を受けたが、全て今まで通りでよいということではない。また判定に至るまで様々な意見が出された。それらは、「博物館という現実的な展示施設を作らずにウェブ上でこれを実現したことは素晴らしい。全国の手本になって欲しい。」「インターネットなどを利用した博物館面白い発想」などであるが、一方で「目的を具体化すべき」「動画コンテンツの充実が必要」「学校教育での活用の推進」「一般住民への周知徹底」など課題も出された。

4. 「むなかた電子博物館」の現状と課題

3でふれたとおり、「むなかた電子博物館」にはいくつかの課題がある。その中で下記に3つあげる。

4-1. 認知度が低い

1つ目は、「むなかた電子博物館」の認知度が低いことである。小・中学生を始め、宗像市民の中でも「むなかた電子博物館」を知っている人が少ないという現状がある。

アクセス数をみると、2010年の年間件数は、26万件を超え、2009年の年間件数を5万4千件上回る結果となっており、年々伸びてきている。しかし、事業仕分けの際もご指摘いただいたが、内容の割にアクセス数が少ない。

今まで「北斗の水くみ写真展」などのイベントの際、市広報紙や市公式ホームページなどで周知、また、遺跡の案内チラシなどに「むなかた電子博物館」の紹介（URLを掲載するなど）を掲載するなどしていたが、周知徹底としては不十分であったと考える。

また、学校現場での利用率も低いと聞いている。カリキュラムの問題、パソコン教室の利用が困難等の理由により、活用できていないという声を聞いた。ただ、海の中道マリンワールド館長、高田様との座談会の中でも話題となったが、ただ使ってくださいではだめ。「この単元のこの場所でこういう風に電子博物館を使うことができます」という風に、こちらから道筋を提示することで、学校現場での利用普及につながるという話をいただき、まさにその通りだと思った。「むなかた電子博物館」は、郷土「むなかた」を学ぶためには絶好の教材であると自負しているため、教育現場での利用普及に努めるためにも、モデルカリキュラムの作成等を行い、提示する必要があると考えている。

4-2. 双方向性の確保

2つ目は、学芸員が不在であるということである。一般の博物館は、博物館法により学芸員を置くことが必須となっており、展示物に関して詳しい説明を行なうことができる人材がいる。しかし、「むなかた電子博物館」は、市民ボランティアの中にそれぞれの分野に詳しい方もいらっしゃるが、学芸員が不在であるため、来館者の質問に対して、迅速な回答ができないことが現状である。今後は有識者や様々な分野に詳しい市民で構成するネットワークづくりを行い、質問への回答など双方向性を強化したいと考えている。

4-3. 展示更新時間の短縮

3つ目は、記事の掲載に時間がかかることである。現在は、委託業者及び事務局がページの作成・更新・変更を行なっているため、チェック等に時間がかかり、掲載までにかかなりの時間を要していた。それを改善すべく、ID/PWを付与された者がページを作成・更新・変更を行なうことができるCMSを導入することとしている。これにより、記事の掲載が早くなり、旬の情報を即時掲載することができるようになる。

5. 「むなかた電子博物館」の今後

現実の博物館が無いかわりとしてオープンした「むなかた電子博物館」。だが、2012年4月、「宗像市郷土文化学習交流施設」がオープンする。現実の博物館ができるが、「むなかた電子博物館」はその役目を終えるのではない。

現実の博物館は、展示スペースが限られる、ガラスケース越しのため詳細が見えない、一方向からしか見ることができない、実際に足を運ばなければ見ることができないなどの限界がある。同じように、電子博物館では、物の大きさなどの把握が難しい。実物の持つよさを感じることができない等の限界がある。

一方で、現実の博物館では、大きさなどの把握が容易であり、実物ならではの良さを感じることができる。同じように電子博物館は、展示スペースに制限が無いため、情報を蓄積し、いつでもどこでも、見たいときに見たい情報を得ることができる。そして、拡大したり違う角度から見ると、電子ならではの良さがある。

今後は、どちらか一方を重視するというのではなく、互いの欠点を補いながら、互いの利点を生かし相互に補完し合うことが必要であると考え。そういう意味でも2011年度は新たに飛躍する年となるであろう。

6. 2010年度（平成22年度）活動記録

2010年（平成22年）

4月1日 「むなかた電子博物館」紀要 第2号 発行

4月19日 「むなかたの野鳥たち」公開

6月1日 第1回 北斗の水くみ写真展実行委員会会議

- ・ 第2回 「北斗の水くみ写真展」の反省
- ・ 第3回 「北斗の水くみ写真展」の内容、スケジュールについて

6月3日 「ホテルの館」発 ホテル情報掲載開始。随時更新。

6月13日 第1回 「むなかた電子博物館」企画運営会議

- ・ 今年度の事業計画について
- ・ 第3回「北斗の水くみ写真展」の実施について
- ・ 田熊石畑遺跡について
- ・ 宗像市郷土文化学習交流施設について

7月1日～9月30日 「北斗の水くみ写真展」写真募集

7月17日 「北斗の水くみ写真展」撮影説明会 「道の駅むなかた」にて

- 8月6日 遺跡発掘調査の報告書 第61集 「概報 田熊石畑遺跡」を追加。
- 8月28日 「北斗の水くみ写真展」撮影説明会 「道の駅むなかた」にて
- 9月7日 九州ウェブサイト大賞授賞式
- 9月22日 企画展【田熊石畑遺跡と古代のムナカタ展～海人たちの足跡～】公開
- 10月1日 第2回 「むなかた電子博物館」企画運営会議
- ・九州ウェブサイト大賞2010の受賞について
 - ・第3回「北斗の水くみ」写真展の経過報告について
 - ・【田熊石畑遺跡と古代のムナカタ展～海人たちの足跡～】について
 - ・新CMSの導入について
- 10月27日 「北斗の水くみ写真展」審査委員会
- 10月28日 「北斗の水くみ写真展」審査結果発表
- 11月9日 第1回 紀要委員会
- ・座談会について
 - ・内容、テーマについて
 - ・スケジュールについて
- 12月15日 座談会（マリンワールド海の中道 館長 高田浩二様を囲んで）
- 2011年（平成23年）**
- 1月15日 宗像市「事業仕分け」
- 2月1日 第3回 「むなかた電子博物館」企画運営会議
- ・新CMSの導入について
 - ・第3回「北斗の水くみ」写真展 報告
 - ・「むなかた電子博物館」紀要 第3号について
 - ・赤間宿のコンテンツについて
 - ・【田熊石畑遺跡と古代のムナカタ展～海人たちの足跡～】について
 - ・事業仕分けの概要について
- 2月17日 第2回 紀要委員会
- ・目次について
 - ・スケジュールについて
- 3月10日 第3回 紀要委員会
- ・原稿の確認

7.「むなかた電子博物館」市民パートナー

平成22年4月～平成23年3月

氏名	（所属など）
石井 忠	（古賀市立歴史資料館 館長）
石黒 正紀	（福岡教育大学 名誉教授）
伊津 信之介	（東海大学福岡短期大学 教授）
岡部 海都	（日本野鳥の会福岡支部 会員）

鎌田 隆徳	(自由ヶ丘南小学校 教頭)
河田 昭	(市民公募)
中村 茂徳	(西南女学院大学 講師)
平井 正則	(福岡教育大学 名誉教授)
平松 秋子	(宗像歴史を学ぼう会メンバー)
堀内 伸太郎	(市民公募)
吉田 義男	(元宗像市史編纂室 室長)
清水 比呂之	(市民活動推進課)
白木 英敏	(市民活動推進課)
許斐 知加	(教育政策課)
占部 晃	(情報政策課)
森田 誓夫	(情報政策課)
上田 めぐみ	(情報政策課)

※1

総務省九州総合通信局ホームページより引用。(2011年2月13日参照)

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kyushu/ai/prize.html>

※2

ウィキペディア「事業仕分け(行政刷新会議)」より引用。(2011年2月13日参照)

<http://ja.wikipedia.org/>